北九州市開催 <焼うどんラウンド> R7.11.1 オンライン開催

九州体育・保健体育ネットワーク研究会

秋深まる時期に、災害級の大雨の影響でオンライン開催となった昨年度から、2年ぶりに対面で実施することができました。11月1日には核学校では、様々行事があるなど、多忙なスケジュールの中ではありましたが、北九州市内だけではなく、全国各地から参加いただき、大学生も含めて対面で7名、オンラインで8名の先生方にご参集いただきました。



佐藤先生のご自宅で育てられた ミカンの差し入れ(美味でした)

研修会も実践発表やワークショップは大変充実したものになりました。 また、佐藤先生、本多先生の厚く・熱い貴重なお話を聞くことができまし

た。ワークショップでは、「次期学習指導要領改訂に向けた中央教育審議会の論点整理の方向性について」 佐藤先生からお話いただき、改めて保健体育科の授業のあるべき姿や大切にしているものは何かについて、 地域、校種、経験年数の垣根を越えて交流を深めることができました。

Ⅰ 実践発表&情報提供(共感・共創へと広がる学びの授業づくり:本多先生)

昨年度報告予定でした、福岡教育大学附属小倉中学校長期派遣研修員の上田先生(現:北九州市立今町小学校)の「自ら進んで運動課題を解決できる生徒を育てる保健体育学習指導法の研究:について報告しました。主に、自分の中にあるイメージや感覚として行うものを「内在的フィードバック」と位置づけ、仲間や映像などの自分以外からの情報を「付加的フィードバック」として、効果的なフィードバック



クを行うことで、自ら課題を見つけ、改善する方向を決める生徒が増えてきたということでした。

また、福岡教育大学の本多先生からは、「共感・共創へと広がる学びの授業づくり」というテーマで情報 提供いただきました。中でも、仲間の多様性を包摂し、互恵性のある学びの実現を図るための「アダプテー

令和7年度九州体育・保健体育ネットワーク研究会 北九州ラウンド

情報提供

共感・共創へと広がる 学びの授業づくり

> 福岡教育大学 教職大学院 本多壮太郎 R7.11.1(土) 於 北九州市立思永中学校 & WEB

ションゲーム(技能の到達度の差をルールによって差異がないように、お互いが合意形成し、「全員」が次のゲームに取り組むことができるゲーム)」について、実際の「大玉相撲」という学習の映像を踏まえて、具体的にご教示くださいました。運動が得意な人だけが楽しみ、苦手な人は我慢する、といった体育ではなく、多くの人たちが、運動の良さに触れる良さや大切さに触れることができる環境づくりの大切さを学ぶことができました。

2 期学習指導要領改訂に向けた中央教育審議会の論点整理の方向性について

佐藤先生から、「中央教育審議会の論点整理について」情報提供いただきました。そして、動向が気になる「資質能力の3つ目(学びに向かう力、人間性等)」についてグループで議論しました。各グループからは、「体育で蓄積してきた、学びに向かう力、人間性等をどう位置付ける(必要)か」「態度の内容が個人内評価になると、指導しなくてもよいとなる不安があ



る」などの意見が交わされました。また、各教科の時数を学校の裁量によって変更することができるかもしれないということについては、「時数の学校裁量が大きくなると、体育の時数が少なくなりはしないか」「OECD 加盟国では、非認知能力を育てるために体育は効果的であるととらえられている。(心と体)」「なぜ体育が大切なのかを問われたときに、きちんと答えられるようにしておくことが大切」といった意見が出ました。議論を重ねていくうちに、改めて「保健体育の授業の良さ・価値」を振り返ることができ、何を大切にして授業をしなければならないかを考えることができたよい機会にさせていただきました。